

鳥の劇場2018年度プログラム＜創るプログラム＞

毎年恒例の二月公演です。寒いか雪とか凍結とか色々心配な時期ですが、春が見えてくる芽吹きの時節でもあります。今回は三島です。今までたいへん好評だった二作品に、「班女」「綾の鼓」を加えて、四作品二週連続上演です。冬の味覚イベントと温泉宿泊プランも用意して、全体に「芸術観光」の色を濃くしてみました。寒い中ですが、芝居で充実して、お弁当やお菓子や酒や温泉も楽しんでください。今回は久しぶりに阿部一徳さんが客演です。

料金

〈公演〉一作品につき

大人：1,500円／18歳以下：500円／中学生以下無料

「飯」特製「春はじめ幕の内弁当」 1,800円

※数に限りがございます。事前にご予約ください。  
鳥取名物・親ガニ汁も販売します。

チケット、お弁当のご予約は、  
電話、ウェブ、電子メールでお受けします。  
料金をご来場時にお支払いください。

電話／0857-84-3268  
ウェブ／www.birdtheatre.org  
電子メール／ticket@birdtheatre.org

予約受付は  
1月15日(火)  
10時より

「茶」旬のいちごを使ったスイーツと温かいお茶のセット 800円  
鳥取産の米を使った「甘酒」も販売します。

「酒」鹿野のクラフトビールや山陰の日本酒、一品200円程度のおつまみやおにぎりを販売します。

「湯」温泉館ホットピア鹿野 大人430円／小人210円  
(営業時間：10:00～22:00)

山紫苑日帰り入浴 大人510円／小学生250円  
(利用可能時間：11:00～20:00)

「宿」山紫苑特別宿泊プラン「きらめき」  
お一人様 10,000円(一泊二食付き〔観劇料を除く〕)

※土曜日のご利用はプラス1,000円になります。  
※宿泊についての詳しいお問い合わせは0857-84-2211(山紫苑)まで。  
その際、鳥の劇場の観劇予定であることを必ずお伝えください。

上演をもっと多くの方に楽しんでいただくために



送迎します  
JR浜村駅と鳥の劇場の間の送迎を行います。  
今回は新しい試みとしてJR鳥取駅からの送迎も実施します。  
こちららも、もちろん無料です。是非ご利用ください。  
必ず事前にご予約ください。ご予約のない場合、ご利用いただけないことがあります。

鳥取駅・浜村駅から劇場まで  
無料で送迎します！

■JR浜村駅⇄鳥の劇場  
下記の時間に浜村駅を出発します。間に合うようにお越しください。  
※列車の遅延等で遅れる可能性がある場合は、出発10分前までに劇場へご連絡ください。  
※帰りのバスは当日劇場にてご予約ください。

2/22-3/1(金)	12:45 / 15:55 / 19:20
2/23-3/2(土)	10:10 / 12:45 / 15:55 / 19:20
2/24-3/3(日)	10:10 / 12:45

■JR鳥取駅⇄鳥の劇場  
(出発/到着場所:JR鳥取駅南口 フコク生命ビル前)

〈JR鳥取駅→鳥の劇場〉	
2/22-3/1(金)	11:50出発
2/23-3/2(土)・2/24-3/3(日)	9:15出発
〈鳥の劇場→JR鳥取駅〉	
2/22-3/1(金)・2/23-3/2(土)	20:10頃到着
2/24-3/3(日)	17:10頃到着



託児します  
小さいお子さまをお預かりします。(無料、二日前までに要予約)



鳥のカフェがあります  
上演の前後にコーヒーや各種ソフトドリンクなどを販売いたします。



バリアフリーをめざします  
障がいのある方にもご覧いただけるよう、適宜対応しております。ご連絡ください。



字幕あります  
セリフが聞こえづらい方のために、手に持てる小さい「字幕」をご用意しております。

主催:特定非営利活動法人鳥の劇場  
後援:鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社 株式会社ふると鹿野  
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団

鳥の劇場へのアクセス

鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話:0857-84-3268

■JRを使って

劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。※公演日は浜村駅と劇場の間を、車で送迎いたします(無料、要予約)。

- 浜村駅まで・鳥取駅から、山陰本線、米子方面行きで30分
  - ・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分
  - ・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分
- 浜村駅から・車で15分

■車を使って

- 公演日は会場近くに案内看板を設置します。
- ・鳥取自動車道、鳥取西ICから約30分
- ・鳥取空港から約30分
- ・鳥取市中心部から約40分
- ・倉吉市中心部から約50分
- ・米子市中心部から約1時間30分



東京・大阪・神戸・京都・広島・福岡の各都市と鳥取の間で高速バスが運行しています。

- 東京 飛行機 約1時間15分(羽田空港-鳥取空港)  
JR 約5時間30分(東京駅-鳥取駅)
- 京都 JR 約3時間(京都駅-鳥取駅)  
車 約3時間(中国自動車道-鳥取自動車道)
- 大阪 JR 約2時間30分(新大阪駅-鳥取駅)  
車 約2時間30分(名神高速道路-中国自動車道-鳥取自動車道)
- 岡山 JR 約2時間(岡山駅-鳥取駅)  
車 約2時間45分(国道53号-鳥取自動車道)



“Lady Aoi”  
“Hanjo”  
“Yuya”  
“The Damask Drum”  
from the Modern Noh Plays

Written by MISHIMA Yukio  
Directed by NAKASHIMA Makoto

TWO WEEKENDS ONLY!  
February 22th- 24th and March 1st- 3rd, 2019

Venue: BIRD Theatre  
1812 Shikano Shikano-cho Tottori City  
Tottori Prefecture 689-0405

Ticket Prices:  
1,500yen for adults / 500yen for 16-18 years old  
\*Admission is free for junior high school students and under.

Contact  
E-mail: info@birdtheatre.org  
Telephone: 0857-84-3268  
Website: www.birdtheatre.org

三島由紀夫「近代能楽集」より4作まとめて上演!

葵上 班女  
[ Lady Aoi ] [ Hanjo ]

熊野 綾の鼓  
[ Yuya ] [ The Damask Drum ]

作:三島由紀夫 演出:中島諒人

2019年2月22日(金)~24日(日)/3月1日(金)~3日(日)

会場:鳥の劇場(鳥取県鳥取市鹿野町 電話 0857-84-3268)

JR鳥取駅から  
無料直通バス  
を運行します。  
金は11:50、  
土・日は9:15に出発

上演は大雪でもどんな天気でも絶対やります! 食のイベントや地元の宿・山紫苑との共同企画も

鳥の劇場2018年度活動テーマ:100年先を考えよう、100年前を思い出そう。よき思いが未来を作る。

上演にあたって

三島由紀夫の自殺は1970年11月で、その年の7月に以下のように書いている。

「私はこれからの日本に大して希望をつなぐことができない。このまま行つたら「日本」はなくなつてしまうのではないかといふ感を日ましに深くする。日本はなくなつて、その代はりに、無機能的な、からつぽな、ニュートラルな、中間色の、富裕な、抜目がない、或る経済的大国が極東の一角に残るのであらう。それでもいいと思つてゐる人たちと、私は口をきく気にもなれなくなつてゐるのである。」

1970年は「人類の進歩と調和」をテーマとした大阪万博の年。日本中が明るい「未来」への希望に高揚していた時期。その中での発言だから、大抵の人は「三島さんって困った人だなあ」と感じたと思う。けれど今読むと、その予言のなんと見事に的中したことか。中身がない国になるであろうという三島の不安、嫌悪は、まさに今の我が国に重くのしかかっている。

「近代能楽集」の上演は、鳥の劇場では何度かやっている。昼メロのようなある意味ベタで濃い展開が非常に好評である。その魅力もちろん

## 三島由紀夫「近代能楽集」より

「近代能楽集」

能の謡曲を題材に三島がそれぞれの主題を發展させて現代劇とした小品の戯曲集。1956年発表時には、「邯鄲」「綾の鼓」「卒塔婆小町」「葵上」「班女」の五作が収載、1968年の新潮文庫版には、「道成寺」「熊野」「弱法師」の三作を加えた全八作が収録された。「能楽の自由な空間と時間の処理や、露わな形而上学的主題などを、そのまま現代に生かすために、シチュエーションのほうを現代化した」(1956年の発表時の三島によるあとがきより)。

# 葵上



2019年2月22日(金)・3月1日(金) 17:00~  
2月23日(土)・3月2日(土) 21:00~

“Lady Aoi”  
February 22nd and March 1st, 2019 at 5:00pm  
February 23rd and March 2nd, 2019 at 9:00pm

1955年初演

都会の病院の一室。原因不明の病に倒れた若い妻・葵のもとに、夫・光が出張から急きよ戻る。看護婦によれば、この病院は、睡眠療法によって患者の性的コンプレックスを解消することで、あらゆる精神の病に対処するらしい。光のかつての年上の恋人・六条康子が音もなく訪れる。

# 熊野



2019年2月22日(金)・3月1日(金) 21:00~  
2月24日(日)・3月3日(日) 11:00~

“Yuya”  
February 22nd and March 1st, 2019 at 9:00pm  
February 24th and March 3rd, 2019 at 11:00am

1959年初演

50歳代の壮健な実業家・宗盛は、今を時めく権勢を誇っている。春の日曜、若い愛人・熊野を囲っているマンションを訪ね、彼女を花見に誘う。しかし、熊野は実家の母の病気を理由に帰郷を求め、宗盛の誘いに頑として応じない。健気な娘を傲慢な権力者が苛むように見えるのだが…。

作:三島由紀夫 演出:中島諒人

2019年2月22日(金)~24日(日)/3月1日(金)~3日(日)

# 班女



2019年2月22日(金)・3月1日(金) 14:00~  
2月23日(土)・3月2日(土) 17:00~

“Hanjo”  
February 22nd and March 1st, 2019 at 2:00pm  
February 23rd and March 2nd, 2019 at 5:00pm

1957年初演

婚期を逃した女流画家・実子は、ある青年への恋慕から心を狂わせた若い女・花子を引き取り、ひっそり暮らしている。が、その隠遁生活は、小さな新聞報道で終りを告げる。駅で毎日恋人を待つ花子の姿が三面記事となった。花子を連れ逃げようとする実子のもとに、青年・吉雄が現れる。

# 綾の鼓



2019年2月23日(土)/24日(日)・3月2日(土)/3日(日) 14:00~

“The Damask Drum”  
February 23rd, 24th and March 2nd and 3rd, 2019 at 2:00pm

1952年初演

古ぼけた法律事務所と向かいの華やかな洋裁店が舞台。法律事務所の小間使いの老人・岩吉が、洋裁店に入り出る美しい婦人・華子に恋をしラブレターを何通も送る。婦人は取り巻きとふざけて、芝居の小道具である布張りの鼓を彼に送る。鼓の音が届けば恋が叶うというメモとともに。

大事にしながら今回触りたいのは、三島の考えていた中身とは何だったのかということだ。それは引用で語られている「日本」ということなのだが、つまりそれは何なのか。

『綾の鼓』初演は1952年、日本が独立を回復した年。『葵上』の初演と『班女』の発表は1955年、自由民主党が生まれた。『熊野』の発表は1959年、現天皇の「ご成婚」があり、東京オリンピックの1964年開催が決まり、社会が盛り上がりしていく。この盛り上がりと反比例して三島の戦後「日本」への希望は絶望へ変わる。

我々は創り上演しながら、「希望」、「日本」について考えたい。観客のみなさんにも、頭の端でそれを少し思っただけいたらと思う。どんな大雪でも絶対上演します。悪天候でも安心して来てください。

鳥の劇場芸術監督 中島諒人

	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
2月22日(金) 3月1日				『班女』	アフタートーク	「茶」	『葵上』	アフタートーク	「酒」・「湯」	『熊野』	「宿」	
2月23日(土) 3月2日	プレトーク	「飯」		『綾の鼓』	アフタートーク	「茶」	『班女』	アフタートーク	「酒」・「湯」	『葵上』	「宿」	
2月24日(日) 3月3日	『熊野』	アフタートーク	「飯」	『綾の鼓』	懇親会	「茶」						

### ■プレトーク「三島由紀夫を巡って」

2019年2月23日・3月2日(土) 11:00~ 参加費:無料

三島についての評論を最近出されたお二方に、それぞれの視点で「三島」を語っていただきます。  
2月23日(土)菅孝行さん(評論家) 3月2日(土)大澤真幸さん(社会学者)

### ■懇親会

2019年2月24日・3月3日(日) 『綾の鼓』上演後

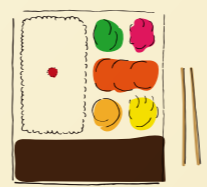
参加費:無料  
演出家、出演俳優が参加しての懇親会を行います。

## 春近い鹿野で、芝居とともに 「飯」、「茶」、「酒」、「湯」、「宿」

2018年5月の大型連休に開催しご好評いただいた食のイベントがグレードアップして帰ってきます。上演の幕間に、食事やスイーツ、お酒、温泉まで楽しんでいただけます。さらに今回は鹿野の宿・山紫苑さんにもご協力いただいて、特別宿泊プランもご用意しました。まだまだ寒さの残る季節ですが、温泉地・鹿野町に少しずつ芽生える春を感じながら、観劇と合わせて、ご飯、お茶、お酒、温泉、宿泊を贅沢にお楽しみください。

### 「飯」

芝居の幕の内(幕間)に観客が食べることからその名がついたといわれている“幕の内弁当”。今回は鳥取の春の素材を詰め込んだ、特製「春はじめ幕の内弁当」を限定でご用意します。鳥取県民にはおなじみの親カニ汁も販売します。近付けてくる春を“食”でお感じください。  
※数に限りがあります。事前にご予約ください。



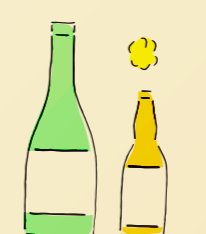
### 「茶」

15時からの幕間は、ほっこりタイム。旬のいちごを使った「いちご大福」や「いちごシュークリーム」とお茶をセットでご用意いたします。ひな祭りをちょっと先取りして、地元鳥取の米を使った「甘酒」も販売予定です。甘いお菓子と温かい飲み物でリラックスしながらアフタートーク、懇親会をお楽しみください。



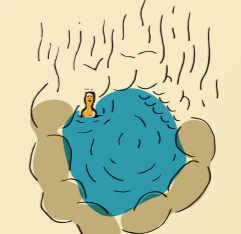
### 「酒」

18時からは日本酒やクラフトビール、一品200円程度のおつまみやおにぎりを販売します。観劇前に体を温めていただくもよし、お帰りの前に余韻にひたりながら楽しんでいただくもよし。是非、バスの送迎を利用して「酒」もお楽しみください。



### 「湯」

鹿野温泉は「おんな水」といわれるほど肌にやさしい泉質。劇場から車で5分程の場所に、日帰り温泉「温泉館ホットピア鹿野」があります。また山紫苑の浴場の日帰り利用も可能です。観劇後はもちろん、幕間に一風呂浴びてさっぱりしてから観劇もおススメです。



### 「宿」

源泉かけ流しの温泉が自慢の宿、山紫苑。その宿泊と季節感たっぷりの会席料理の夕食がセットになった、一泊二食付きの特別宿泊プランをご用意いただきました。お一人様10,000円でご利用可能、劇場と宿の間の送迎付きです(土曜日はプラス1,000円)。金・土はお宿で夕食を済ませてから、ゆっくと21時の上演をご鑑賞ください。

